

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【長野原町立北軽井沢小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V （複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	本校児童 1～6年 78名 本校職員 15名 保護者18名
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（体育・特別活動・道徳等）</p> <p>② 行事名（PTA講演会）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目 標 （ねらい）	<p>本事業を活用し、教育活動全般を通してオリンピック・パラリンピックに関する児童の興味や関心を高める。さらに、スポーツを楽しむ過程で、規範意識の涵養や共生社会や異文化への理解を促進する機会として本事業を活用する。併せて、児童がこれからの生活で、生涯にわたってスポーツに親しむ素地を育む。</p>
5 取組内容	<p>○6年道徳（日本オリンピック委員会「オリンピズム・フェアプレー」スウェーデン・キエル兄弟「人類愛の金メダル」と讃えられた海の男のフェアプレー）</p> <p>○6年学活（「パラリンピアンが学校に来るとしたら」 国際パラリンピック委員会公認教材）</p> <p>○水泳（体育）群馬障害者水泳協会の尾高選手、奈良選手、柴田コーチの指導による水泳の授業（弱視者の水泳体験も）</p> <p>○PTA講演会（荻原健司元スキー複合選手を講師に迎えて「私のオリンピック」；スポーツを通じた世界平和を表す五輪の意味、出場してわかったことや考えたこと、それまでの過程で学んだこと</p> <p>○人権週間の校長講話（公平について考えよう；車いすの子の玉入れ参加 国際パラリンピック委員会公認教材）</p> <p>○3学期始業式の校長講話で、2020年がオリパラ開催年であることを再度確認</p> <p>○学校朝礼「まさつの科学」（スケートやスキーが滑るわけ；オリパラ推進→児童の登下校時の安全指導へ発展させる）</p> <p>○スケート授業（校内リンク、嬬恋高校リンク）</p> <p>○クロスカントリースキー体験（体育）</p> <p>○アンケート調査に派生するオリパラの広報活動</p>

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関して、以前にも増して積極的に取り組むようになり、体力優良証交付率が上昇 ・実際のオリンピック、パラリンピアンと直接交流する中で、オリンピックやパラリンピックについて身近なイベントして感じるようになった。 ・立場の異なる人間の意見に対して、以前よりもさらに耳を傾けるようになった。 ・集団の中へ積極的に参加していこうとする児童が増えた。 ・教員自身が、授業間の関連づけを意識した実践を一層心がけるようになった。 ・五輪を「スポーツを通した国際平和追求のイベント」ととらえる荻原健司氏の講演は、今後、一層求められる国際理解の必要性をスポーツの面からとらえるきっかけになった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季の体力作りとしてのスピードスケートの授業 ・スピードスケートのリンク管理を保護者による組織的支援（雪かき、水まき作業等を班体制をつくって実施） ・校庭の積雪を利用したクロスカントリースキー体験実現にかかわり、町役場、他校、他町村からの支援を受けての実施 ・水泳の授業へのパラ選手招聘（2018は走る、2019は泳ぐ道具を使わないパラ競技を体験することで、運動することそのものの素晴らしさに気づかせるようにした） ・視覚障害者の水泳に関しては、協会のコーチと肢体不自由のパラスリットによる協力で実現した。（特殊なゴーグルの着用やタッピング棒の使用体験） ・聴くだけの講演では低学年や中学年が飽きてしまうので、ローラースキーの実演を入れるなど、聴覚だけでなく視覚的な情報の提供を通した意欲付け。 ・肢体不自由児の学級があるため、運動会やマラソン大会への参加について、パラ選手とのふれあいを通して、合理的な配慮と対象児の参加意欲とを十分に考慮した実践 ・2月いっぱい雪で覆われる校庭を利用したクロスカントリースキー体験を通した講演会内容の実感的理解の促進 ・備蓄庫見学（共生社会実現に必要な気づきの促進） ・学校朝礼（校長講話）との関連づけ
8 主な課題等	<p>○体験型の講演会の実施に伴う場所や日程の調整（講師予定者の大会参加に伴うスケジュール調整や天候条件等による実施、延期等の判断が難しい。）</p> <p>○講師依頼（学校単独では、講師情報がなく、健康体育課の担当者に負担をかけてしまった。）</p> <p>○教育課程における関連づけの一層の推進。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○新学習指導要領の完全実施に向けたオリパラ推進教育の継続（自己実現、規範意識、共生社会、国際理解、生涯学習等の視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗やメダルにこだわりすぎないスポーツの推進(自己実現の機会としてのスポーツ) ・地域や家庭と連携した学校教育の推進 ・地域の実態に応じた教育の推進（厳寒期の体力向上等） <p>○学校統合に向けた交流事業とオリパラ推進教育の連携</p>



図1 パラ水泳(弱視ゴーグル着用)

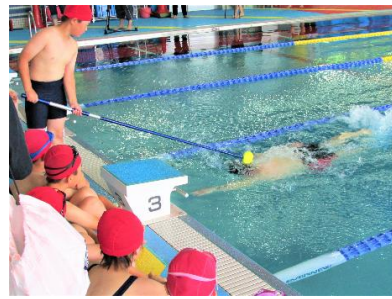


図2 パラ水泳(タッピング棒体験)



図3 パラ水泳(コーチ講話)



図4 荻原健司氏講演会



図5 荻原健司氏講演会(ローラースキー)



図6 6年道徳(「人類愛の金メダル」)

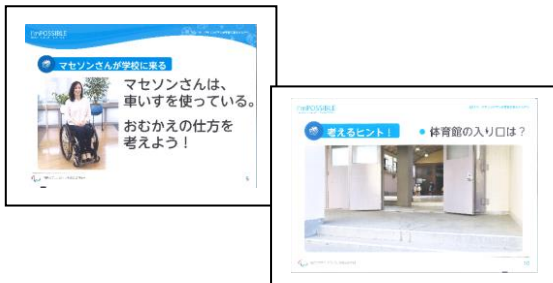


図7 6年学活(指導用資料)



図8 学校朝礼(スキー・スケートと摩擦の関係)



図9 スケート授業(1年生を支援する6年生)



図10 スケート授業(2年生)



図11 授業後のリンク清掃

	
<p>図12スケート授業(雫恋高校リンク)</p>	<p>図13 町スケート大会</p>
	
<p>図14 冬休みスケート教室(自由滑走)</p>	<p>図15 スポーツ少年団(雫恋高校リンク)</p>
	
<p>図16 リンク管理(水まき)</p>	<p>図17 リンク管理(除雪)</p>
	
<p>図18 クロスカントリースキー体験1</p>	<p>図19 クロスカントリースキー体験2</p>
	<p>町の避難所に指定されている本校では、観光客や別荘利用者をはじめ、農業研修生など多くの外国人、老人、妊婦、乳幼児、車いす利用者など幅広い緊急避難が予想される。緊急避難者が互いに助け合い救助を待つ関係づくりにもオリパラ推進教育の成果が現れることを期待している。</p>
<p>図20 避難備蓄庫(共生社会の構築)</p>	

パラ水泳 奥深く知って 長野原北軽井沢小 メダリスト指導

[2019/06/15]



奈良さん（左）と尾高さんを招いて開かれた水泳教室

スポーツ庁の「オリンピック・パラリンピック教育推進校」に指定されている長野原北軽井沢小（山野梧校長）は14日、長野原町内のプールで、パラアスリートを招いた水泳教室を開いた。全校児童約80人が、講話や体験を通じ障害者スポーツの奥深さに触れた。

全国障害者スポーツ大会で優勝経験のある尾高広蔵さん（49）＝前橋市＝と、4度のパラリンピックに出場したメダリストの奈良恵里加さん（41）＝同＝が実技を指導した。尾高さんは左腕だけの素早いバタフライを披露し、奈良さんは軽快な身のこなしでクロールを演じた。

長野原 北軽井沢小で萩原健司さん

スポーツ庁「オリンピック・パラリンピック教育推進校」に指定されている長野原北軽井沢小（山野梧校長）は26日、長野原町の同校体育館で、冬季パラメダリストの萩原健司さん（49）＝車津町出身＝を招いた講話を開いた。児童や地域民ら約100人参加。萩原さんが競技人生で五輪の経験をつたつた言葉、そして、萩原さんが、本格的にパラリンピック競技に入ってから、2016年のリオデジャネイロ大会で金メダルを獲得した経験が、児童や地域民らに大きな刺激を与えた。萩原さんは、スキー・ノルディック複合の選手として4度の五輪に出場。アルペイン・リレー（1994年）と、リレー（1998年）の2大会で金メダルを獲得した。現在は北軽井沢小（山野梧校長）で、スキー部のコーチとして、児童や地域民らに指導している。



五輪経験 振り返る

パラ水泳掲載記事（6/15 上毛新聞）

オリンピック・パラリンピックアンケート1 年 名前

1. 2020 年に日本でオリンピック・パラリンピックがあることを知っていますか。

はい いいえ

2. 下の「パラスポーツのピクトグラム（競技を表す絵文字）」1～8のなかから

水泳と陸上のピクトグラムをひとつずつさがしましょう。

水泳（ ）

陸上（ ）



3. 萩原健司さんが冬のオリンピックで金メダルをとった競技を表すピクトグラム

はどれでしょう。つぎのなかからひとつえらんで○でかこみましょう。

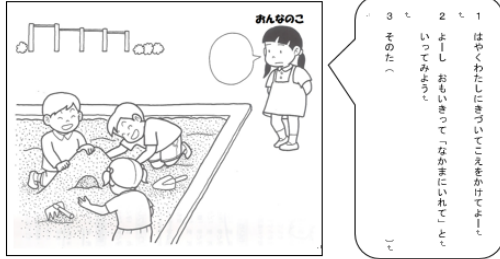


これは平昌オリンピックのときのものです。3 への回答は4月5年生だけでよいです。

講演会掲載記事（6/29 上毛新聞）

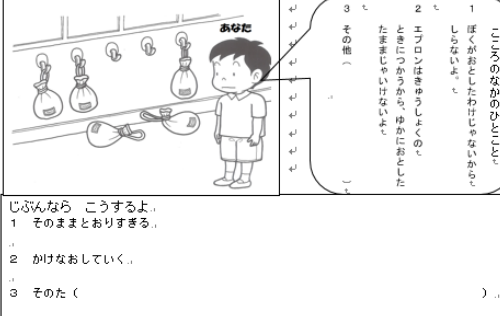
4. いっしょにあそびたいですがなかなかそれができません。あなたがこのおんなの

子ならどんなひとことを言いますか。ひとつえらびましょう。



5. エブロンがふたつ、ゆかに落ちています。あなたがこの子ならどうしますか。

そのとき、あなたはここの中でどんなひとことを言いますか。



アンケート初回（表）

オリンピック・パラリンピックアンケート4 年 名前

1. 2020年に日本でオリンピック・パラリンピックがあることを知っていますか。

はい いいえ

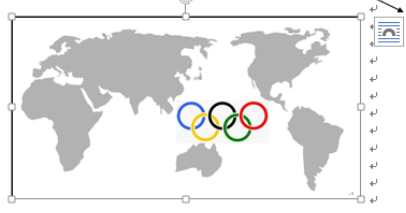
2. 4月1日に長野原町の川原湯で、聖火リレーがあることを知っていますか。

はい いいえ

3. オリンピックの五つの輪は「スポーツをやることで、世界中の人となかよく

しましょう」を表しています。いつか行ってみたい場所を地図のなかに○で

かこむか、地図のよこに国の名前を書きましょう。



4. おとしよりになっても、からだをうごかすのが不自由でも工夫すればみんなでス



ポーツはたのしめます。あなたがおとしよりになったら、どんなスポーツをやってみたいですか。また、それはどうしてですか。

アンケート初回（裏）

アンケートは、児童の変容を評価することよりもオリパラ実施を広報する道具として実施した。

ピクトグラムについては、LD 傾向の児童や低学年児童にとっては競技への親しみを増す記号として意味のあるものである。また、積極的な姿勢や規範意識の醸成などを測定の視点とした。

最終回のアンケートでは、町で聖火リレーが行われることの広報と、講演会で語られた五輪の意味、生涯にわたってスポーツを楽しむこと、生涯の有無にかかわらず工夫すれば競技を楽しむことができるというこの1年間の学びの復習の機会とした。

アンケート最終回

長野原
スポーツ庁「オリ
ンピック教育推進校」
に指定されている長野原北
軽井沢小（山野悟校長）は
12日、長野原町の同校校庭
でクロスカントリースキー
の体験授業を開いた。3、
6年生の約60人が滑り方を

クロカンに挑戦

北軽井沢小で体験授業

学んだー写真。

冬季五輪金メダリストの
荻原健司さん（草津町出身）
の姉で、長野原市桑小教諭
の中沢尚子さんが講師を
務め、スキーを履いて歩く
練習やストックを使った滑
り方などをレクチャー。児
童はリレーや鬼ごっこなど
の遊びを交えた練習で、ク
ロカンを楽しんだ。

ともに4年生の重原千晃
君は「普通のスキーと違い、
かかとが外れるので難しか
ったけど、滑れるようにな
った」と笑顔を見せ、田村
歩夢さんは「スケートとス
キーが交ざった感じで楽し
かった」と話した。

昨年6月に開催した荻原
さんの講演会の関連で、児
童にクロカンの魅力を体験
してもらおうと開いた。

・はじめてだったけど、先生たちが教えてくれ
てうれしかった。スケートと同じ動きをしてい
たらスピードが出てきて、1回しか転ばなかつ
たのでたのしかったです。またやってみたいで
す。

・はじめてやったけど、スケートに似ててなん
となくできた。スケーティングをやったけど、
むずかしくてあまりできなかった、最後にスト
ックなしでおにごっこをやって、ストックがな
くてもよくすべれた。楽しかった。またやって
みたい。

・・・私がクロカンでできたことは、押して
すべるのと歩いて動くことでした。このふたつ
はできたのですが、スケーティングはできませ
んでした。クロカンじたいはスキーとにしていま
したが、スケーティングはスケートににしていま
した。しかし、板が長くてスケートのようには
いきませんでした。スキーとちがうのは、板が
細く、後ろの足のかかとが上がることです。後
ろ足が上がるので、とても歩きやすかったで
す。板も補足、滑りやすかったです。

私はクロカンを初めてやりましたが、しどうし
てくれた先生方がやさしくてとても楽しかつ
たです。

・・・最初は校庭を一周するのも大変でした。
バランスがとれなかったり、ぜんぜん進まなか
ったりで大変でした。でも、コーンをふたつ使
って八の字のコースで滑っているうちに
だんだんとスケーティングができるようにな
って、とっても楽しくなってきました。

クロカン掲載記事（2/14 上毛新聞）

児童の感想（抜粋）